

～草丈高く、茎数少ない。適切な水管理を！～

7月	上旬			中旬			下旬		
日	1	5	10	15	20	25	31		
生育	最高分げつ期			幼穂形成期			減数分裂期～出穂期		
	10葉期			11葉期			12葉期		
水管理	中干し	間断かん水 ※あきたこまちRの場合					湛水管理		
	中干し	間断かん水			湛水管理（カドミウム吸収抑制対策）				
	カドミウム吸収抑制対策の湛水管理は8月下旬頃まで								
作業	★斑点米カメムシ類対策								
	畦畔草刈り（出穂10～15日前まで）						草刈り禁止期間※		
	★葉いもちが発生した場合						※収穫2週間前まで。 ただし出穂期10日後頃の薬剤散布後7日以内に一度草刈りを実施する。		
	フラス剤又はノフラス剤を散布			必要に応じてビーム剤の追加散布					
	★穂いもち防除を実施する場合			① コタツツ剤又はゴウツツ粒剤を散布					
				② トライロアブル又はビーム剤			+	トライロアブル又はラフザイト剤	

1 7月4日現在の生育状況

○7月4日現在の生育は、草丈は平年比118%と長く、茎数は平年比74%で平年より少なく、ほ場によっては目標茎数より少なくなっています。葉数は平年差+0.3葉とやや進んでいます。葉色も平年比99%と平年並です。

○仙台管区气象台が令和7年7月3日に発表した東北地方の1か月予報（7月5日～8月4日）によると、向こう1か月の気温は高い見込み、降水量は少ない見込み、日照時間は多い見込みとなっています。

表1. 7月4日調査（農業振興普及課）

	草丈 (cm)	茎数 (本/m ²)	葉数 (葉)	SPAD
本年	58.5	465	10.5	45.3
平年	49.6	630	10.2	45.6
平年差 (%, ±)	118%	74%	+0.3	99%

2 水管理 ～ カドミ対策の湛水期間は出穂3週間前から ～

○中干しは、遅くとも幼穂形成期前までに終了し、以降は基本的に間断かん水とします。
○減数分裂期から穂ばらみ期にかけて障害不稔の危険性がある低温（平均気温20℃以下、最低気温17℃以下）が予想される場合は、幼穂形成期から約10日間、25℃程度の水を10cm位に保つことで被害軽減効果があります。
○最も低温に弱い時期は、出穂10日前頃の減数分裂期です。低温時は15cm以上（可能であれば17～20cm）の深水管理を実施します。

あきたこまちR以外の品種では、従来どおりカドミウム吸収抑制対策として、出穂前後各3週間の湛水管理を徹底してください。生育が進み出穂が早まる見込みのほ場では、生育の進みに合わせて、湛水開始を早めてください。



カドミウム汚染米
防止対策について

3 追肥 ～ 幼穂形成期の生育・栄養診断を実施しましょう ～

幼穂形成期（幼穂2mm）の極端な葉色低下は、1穂粒数の減少・有効茎歩合の低下を招きます。幼穂を確認し、表を参考に生育・栄養診断を実施して下さい。

注) あきたこまち、目標収量570kg/10a

生育型	生育過剰	理想的な生育	生育不足
草丈 (cm)	65 cm以上	60～65 cm	60 cm以下
葉色 (SPAD502) (葉色板)	42以上 (5.5以上)	39～42 (4.5～5.5)	39以下 (4.5以下)

追肥 (N成分)	幼穂形成期	なし	ムラ直し1 kg/10a	1～2 kg/10a
	減数分裂期	なし	1～2 kg/10a	1～2 kg/10a

図1 幼穂形成期の生育による追肥の診断(暫定案)

- 幼穂形成期に草丈65cm以上で葉色が濃い場合は、穂肥は控えます。
- 幼穂形成期に草丈60～65cmで、葉色の低下が見られる場合は、減数分裂期（葉耳間長±0cm、7月25日頃）主体の追肥を実施します。
- 幼穂形成期に草丈60cm以下で、葉色が低下している場合は幼穂形成期（7月15日頃）と減数分裂期（7月25日頃）の追肥を実施します。
- 一発型の肥料を施用した場合は、基本的には追肥は控えるようにします。

4 病虫害防除 ～ 畦畔等の草刈を徹底して斑点米カメムシ類を抑制～

★飼料用米も主食用米と同様に防除対策を行ってください★

①斑点米カメムシ類

- 畦畔や農道等の草刈りは、出穂10日前までに徹底しイネ科雑草の除去に努めます。
- 水田内にホタルイ等のカヤツリグサ科雑草やノビエの残草があると、アカスジカスミカメの侵入を助長するので、水田内の雑草対策を徹底しましょう。

②いもち病

- BLASTAM（アメダス）の判定では、管内では7月3日までに感染好適条件は観測されていませんが、ほ場の見回りにより葉いもち病斑を発見したら、直ちに予防剤と治療剤の混合剤（ブラシン、ノンブラス）を散布して下さい。
- 葉いもちが多発しているほ場では、出穂15～7日前にコラトップ剤またはゴウケツ粒剤（サンブラス粒剤）を散布するか、出穂直前にビーム剤（またはトライフロアブル）と穂揃期にラブサイド剤（またはトライフロアブル）で茎葉散布を行います。

③ごま葉枯病

- 過去にごま葉枯病の発生があり、「秋落ち」が認められるほ場では、出穂直前と穂揃期にブラシンフロアブルまたはノンブラスフロアブルを散布してください。また、発生履歴がないほ場でも、幼穂形成期～穂ばらみ期に発病が見られた場合は、出穂直前と穂揃期に防除を行ってください。

！今後も高温の予報！作業前に「熱中症特別警戒情報」等の発表状況を確認しましょう！

JA・主食集荷商業協同組合加入業者以外の集荷業者や消費者へ直接販売している方は、ご自身の責任で確実に玄米のカドミウム濃度を分析し、安全な米の販売を行ってください。